

2019年5月29日 全5頁

メイ首相退任後の新党首レース

ブレグジット党に勝利できる新首相は誰か？

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 134

ロンドンリサーチセンター
シニアエコノミスト
菅野泰夫

[要約]

- 英国のメイ首相は、2019年5月24日午前10時すぎに首相官邸前で声明を発表し、6月7日に保守党の党首を辞任する意向を示した。新党首が選出されるまでは首相を務めるとし、辞任の翌週から新党首選出のプロセスが開始されるとした。
- メイ首相の辞任表明は、実質的に保守党党首選がスタートしたことを意味する。党首選を所管する1922年委員会の発表では、主な日程として、6月10日までに立候補を締め切り、決選に進む2候補者にまで絞り込むのは6月末までに終わらせる。この後、議会の夏季休会開始（通常は7月下旬）までに新党首を選出する予定である。
- 現時点でも、10議員以上が党首選に出馬の意向を示しているとされ、数十年ぶりの大混戦が予想されている。有力候補の筆頭はジョンソン元外相であろう。ロンドン市長時代から市民からの絶大な人気を誇り、カナダ方式のハードブレグジットを目指すところに、保守党党員の圧倒的な支持を得ている。

メイ首相が退任を発表

英国のメイ首相は、2019年5月24日午前10時すぎに首相官邸前で声明を発表し、6月7日に保守党の党首を辞任する意向を示した。新党首が選出されるまでは首相を務めるとし、辞任の翌週から新党首選出のプロセスが開始されるとした。

メイ首相はブレグジットを実現するために最善を尽くしたと述べ、離脱合意を支持するよう議員説得に向け全ての手を打ったが、残念ながら議会承認には至らなかったことを認めた。ブレグジットを実現できなかったことは、今後に大きな悔いを残すことになるとして、「妥協は悪いことでない」とのニコラス・ウィントン¹の言葉を引用した。声明の最後には声を震わせ、沈着冷静で知られた首相が珍しく感情を露呈させた。もうすぐ退任するものの、首相を務められたことは、自分の人生において大変光栄なことであり、故マーガレット・サッチャー元首相に続く二人目の女性首相として、「愛する母国に尽くせたことを非常に感謝する」との言葉で締めくくった。

保守党新党首選出方法およびスケジュール

メイ首相の辞任表明は、実質的に保守党党首選がスタートしたことを意味する。党首選を所管する1922年委員会の発表では、主な日程として、6月10日までに立候補を締め切り、決選に進む2候補者にまで絞り込むのは6月末までに終わらせる。この後、議会の夏季休会開始（通常は7月下旬）までに新党首を選出する予定である。

党首選は2つのステージに分かれており、まず第1ステージでは、党内の立候補者全員（立候補には2議員の支持が必要）に対し、保守党下院議員（全313名）による投票を行い、得票数の最も少ない候補者が1人ずつ脱落し、最終的に2名になるまで投票を続ける。最終投票は、選ばれた2候補による決選投票となり、全国の保守党党员（約12万人）が1党员1票ベースで郵便投票を行う、党首の当選要件はこの第2ステージでの過半数の獲得である（第1ステージで立候補者が2名であった場合は、最終投票のみ実施する）。2001年から現在の方式で実施されており、それ以前は最終投票でも一般党员は投票できなかった。

ただ前回（2016年）のケースでは、最終投票の前に、対立候補であったレッドソンエネルギー担当相（当時）がメイ候補支持を表明して、決選投票進出を辞退したため最終投票が行われなかった。今回も数人に候補が絞られた際に、組閣時の主要閣僚ポストを狙い、決選投票で勝利が確実視されている候補者への支持や、立候補を取り下げるなどの政治的な駆け引きが予想されている。また決選投票は郵送で行うため時間がかかるので、最終投票を議会の夏季休会までに終わらせるために、第1ステージを毎日実施するなど、期間の短縮が検討されている（基

¹ 第二次世界大戦勃発直前、ナチスドイツの迫害からユダヤ人の子供たちを守るため、チェコスロバキア（当時）から計669人の救出を支援し、英国のシンドラーとして知られる。戦後はメイ首相の選挙区である英国南西部のメイデンヘッドに住み、メイ首相に対し上記のアドバイスをしたという。

本的に実施曜日は決まっていない)。

図表 1 過去の保守党党首選の投票結果

実施年	第一次投票		第二次投票		第三次投票		決選投票	
1995年	7月4日							
	メージャー(確定)	218票						
	レッドウッド	89票						
1997年	第一次投票 6月10日		第二次投票 6月17日		第三次投票 6月19日			
	クラーク	49票	クラーク	64票	ヘイグ(確定)	92票		
	ヘイグ	41票	ヘイグ	62票	クラーク	70票		
	レッドウッド	27票	レッドウッド	38票				
	リリー	24票						
	ハワード	23票						
2001年	第一次投票 7月10日		第二次投票 7月12日		第三次投票 7月17日		決選投票 9月13日	
	ポーツロ	49票	ポーツロ	50票	クラーク	59票	ダンカン・スミス(確定)	155,933票
	ダンカン・スミス	39票	ダンカン・スミス	42票	ダンカン・スミス	54票	クラーク	100,864票
	クラーク	36票	クラーク	39票	ポーツロ	53票		
	アクラム	21票	アクラム	18票				
	デービス	21票	デービス	17票				
2005年	第一次投票 10月18日		第二次投票 10月20日		決選投票 12月6日			
	デービス	62票	キャメロン	90票	キャメロン(確定)	134,446票		
	キャメロン	56票	デービス	57票	デービス	64,398票		
	フォックス	42票	フォックス	51票				
	クラーク	38票						
2016年	第一次投票 7月5日		第二次投票 7月7日					
	メイ	165票	メイ(確定)	199票				
	レッドソン	66票	レッドソン	84票				
	ゴープ	48票	ゴープ	46票				
	クラブ	34票						
	フォックス	16票						
2019年 (予定)	立候補締め切り 2019/6/10		第一次投票(議員投票) 6月13日頃~		第X次投票(最終議員投票) 6月末頃		決選投票(保守党黨員投票) 7月中旬~下旬	

(注) 2001年の第一次投票は最下位が同票のため、全員第二次投票に進出

(出所) 保守党ウェブサイトより大和総研作成

次期首相は誰の手に

現時点でも、10 議員以上が党首選に出馬の意向を示しているとされ、数十年ぶりの大混戦が予想されている。有力候補の筆頭はジョンソン元外相であろう。ロンドン市長時代から市民からの絶大な人気を誇り、カナダ方式のハードブレグジットを目指すところに、保守党黨員の圧倒的な支持を得ている。

ファラージ党首率いるブレグジット党が急激に支持を伸ばしていることへの危機感により、保守党黨員の多くはファラージ党首に勝てるのは、ジョンソン元外相のみと捉えているという。

昨年、ブレグジットを支持するため、(イングランド北部の労働者階級の白人などの) 労働党の支持者の多くが、一般投票でジョンソン元外相に投票したいがために保守党党員に鞍替えしたほどの人気でもある。このため決選投票に進めば、ぼぼ間違いなく勝利するといわれている。ただし、ジョンソン元外相は、信条よりも有権者受けを優先し、なりふり構わず首相の座を狙っているだけとの評もある。実際に首相になった際に、これまで喧伝してきたように本当に強硬離脱へ舵を切るかどうか注目されている。

ジョンソン元外相の対抗馬の1人は、ゴープ環境相であろう。ジョンソン元外相とともに、国民投票時の離脱キャンペーンの顔として活動した。前回(2016年)の党首選ではジョンソン元外相の支持に回るとの予想に反し対抗馬として立候補したため、盟友を裏切った人物として知られている²。ジョンソン元外相よりも強硬な離脱派であるものの、党内の融和を実現し、環境相としてEUによる影響を実感させられた経験により、合意なき離脱の回避を目指すとの見立てでもある。ただ最後までメイ政権に忠誠を尽くしたことは強硬離脱派議員からの反発を呼んでおり、党首選で支持が得られるかは未知数である。また徹底した強硬離脱派と評価されるラブ元EU離脱相も有力候補の1人だ。2018年11月にメイ首相の離脱合意に抗議して離脱相を辞任したことで、党首選勝利の可能性を高めたとされる。

図表2 保守党党首選、立候補者予想

名前	年齢	派閥	オッズ (Ladbrokes社、5月28日時点)
ジョンソン元外相	54歳	離脱派	40%
ゴープ環境相	51歳	離脱派	20%
ラブ元EU離脱相	45歳	離脱派	17%
レッドサム元院内総務	56歳	離脱派	11%
ハント外相	52歳	残留派	8%
ジャビド内務相	49歳	残留派	4%
モーダント国防相	46歳	離脱派	4%
ハンコック保健相	40歳	残留派	3%
ラッド雇用年金相	55歳	残留派	1%

(出所) 保守党ウェブサイト、Ladbrokes社より大和総研作成

² キャメロン首相(当時)が国民投票の実施を宣言した際に、キャメロン首相と個人的にも親しいとみられていたゴープ議員(当時)が残留を支持するという大方の予想に反して離脱支持に回ったことは、驚きを招いた。

さらに初のマイノリティ（非白人）首相を目指す、ジャビド内務相の名前も上がる。パキスタン出身のバスの運転手の息子であるジャビド内務相が党首に就くことは、庶民でもトップの座を狙える政党であることを示す機会になると捉える保守党党员も多い。キャメロン政権ではビジネス担当相を務め、国民投票では残留を支持している（ただし、演説下手という弱点がある）。また国民投票まで熱心な残留派ながら現在は離脱派に転じているハント外相、合意なき離脱に断固として反対するラッド雇用年金相、メイ首相退任発表の直前に院内総務を辞任し党首選に備えた、レッドサム議員は前回の党首選に次ぐ挑戦に強い意欲を示している。

アウトサイダー的な存在では、離脱派ながら社会問題についてはリベラルなスタンスを示すモダント国防相は、党内融和の顔となる可能性を秘めているだろう。また40歳の最年少閣僚であるハンコック保健相や、マクベイ元雇用年金相、スチュワート国際開発相などの候補がどれだけ健闘するか注目されている。

欧州議会選での保守党大敗により新首相は合意なき離脱の選択肢しかない？

どの候補者が新首相になろうと議会の勢力図が変わらない限り、野党からの抵抗に遭い、離脱協定のコンセンサスを見つけることは困難を極める。本来、どのような形であれ、ブレグジットを実現するためには、離脱協定に対する議会承認が必要であることには違いない。強硬離脱とは一線を画すブレグジットを実現する唯一の方法は、総選挙であるが、支持率が低迷する保守党が勝利する可能性は低く、強硬離脱派は合意なき離脱に向けた準備をすべきと警告している。

また新首相に有力とされるジョンソン元外相とラブ元 EU 離脱相が、EU が離脱合意の再交渉に応じなければ、合意なき離脱を選ぶとしていることも、議会にとっては脅威とされている。新首相が合意なき離脱を目指せば、議会がこれを阻止する方法はほとんどない。新首相が離脱合意承認を放棄し、合意なき離脱を目指せば、意味のある投票（Meaningful vote）は行われず、（意味のある投票を規定する）EU 離脱法に基づいて議会が議事進行の主導権を握ることができない。これにより、議会が合意なき離脱の可能性を排除したり、離脱期限を延長させるような法律を策定したりする機会は巡ってこない。

さらに5月26日に開票された英国での欧州議会選で、ファラージ党首が率いるブレグジット党が得票率31.6%でトップとなり73議席中29議席を獲得したことも、合意なき離脱の可能性を高めたといわれている。保守党は少数政党である緑の党の後塵をも拝し、得票率が第5位に終わり、たった4議席しか獲得できないという歴史的な敗北を喫した。6月6日に行われる下院補欠選挙においてもブレグジット党は候補者を擁立しており、このままの勢いで保守党から議席を奪う可能性が高いという。頑なにブレグジットの再交渉に応じないEUの状況が続けば、強硬離脱路線に切り替えない限り、保守党はブレグジット党から離脱支持層の有権者を奪い返すことができず、合意なき離脱を支持するしか選択肢がなくなるだろう。

(了)